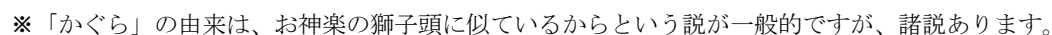


日本の町家は通常、「妻入」か「平入」のどちらかが一般的です。

そのほか、妻入の前面に1-2間ほど下屋をおろした「前下屋」と呼ばれる形式もあります。このように、三国湊の町並みは多様な屋根形状を持つ町家が混在している、変化に富んだ町並となっています④。



16



① かぐら建ての例



② かぐら建ての例



③ かぐら建ての例



④ かぐら建てや平入が混在する町並み

POINT

- ▶ 屋根の形状は時代や地区によって特徴が異なるので、新築時や改修時にはその特徴がないか調査することが望ましいです。
- ▶ いわゆる「看板建築」や「仮面町家」などと呼ばれる正面を洋風・近代風に増改築された町家も多く存在しています。そのような建物を増改築などする場合は、事前に町家の特徴を調査することが望ましいです。

今後の課題

- ▶ 特に「かぐら建て」は三国湊独自の屋根形状を持つ町家形式であり、これ以上失われな
いために、できるだけ保存していくための対策・方策の整備が必要です。

4) 小屋根

正面の1階ひさしの部分を三国では「小屋根（こやね）」と呼びます。

時代による違い

[幕末-明治初期] 先端部分を木の厚板を2枚重ねた板葺①。

[明治前期] 板葺きの上に化粧垂木を打ち付ける例が見られるようになる。

[明治後期-大正期] 円弧状の木下地に銅板葺の「むくり小屋根」。大正期に流行した②。

[現在] ガルバリウム鋼板の段葺など現代的な葺替えや新築もみられる③。

地区による違いの例

[川下の下新区周辺] 瓦葺の例が多い④。

[松ヶ下より上の下町通り] 板葺きのものが正式とされる。



① 厚板を2枚重ねた板葺き



② 銅板葺きの「むくり小屋根」



③ ガルバリウム鋼板段葺の小屋根



④ 瓦葺の小屋根

多様な小屋根の意匠

地区による特色のほか、様々な意匠上の工夫により多様な小屋根が存在しています。例えば、むくり小屋根だけではなく、直線状や菱葺などの銅板葺も存在します⑤。

また、細部にも意匠上の様々な工夫が施されており、例えば、そりを用いるなど、多様な意匠の小屋根が存在しています⑥。このような衣装は、地形に沿って曲がりくねった街路形状により、けらば部分（屋根の両端部分）が直線街路に並ぶ場合よりも目につきやすくなっています。



⑤ 直線状の菱葺銅板の小屋根



⑥ けらば部分にみられる意匠上の工夫

小屋根のある町並み

同じ形状や高さで連なることで整った小屋根の町並みがみられます⑦。一方で、多様な意匠が作られてきたため、小屋根のバリエーション豊かな町並みも形成されています⑧。



⑦ 同じ小屋根が連続する町並み



⑧ 多様な小屋根の連続する町並み

POINT

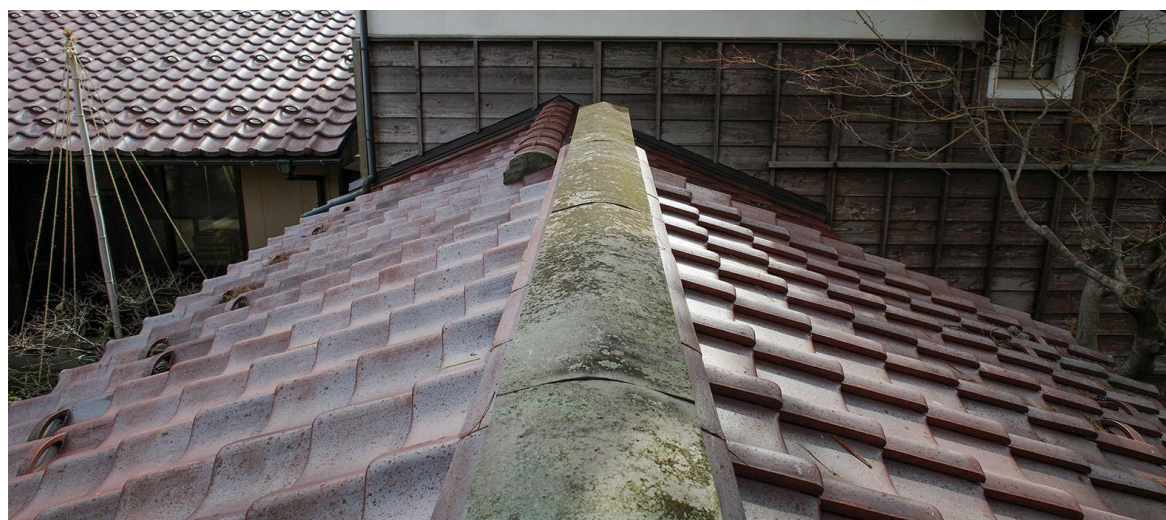
- ▶ 時代や地区によって特徴があり、改修時には時代や地区の特徴がないか調査することが望ましいです。
- ▶ 時代や地区の特徴はみられるものの、小屋根形状や葺き方、雪止めや細部意匠の有無などによって多種多様なバリエーションが存在していることから、小屋根を設計する際は意匠上の重要なポイントの一つです。
- ▶ 地形に沿って曲がりくねった街路のため、小屋根のけらば部分（屋根の両端部分）は目につきやすく、彫刻を施すなど意匠的に工夫がなされてきた部分です。

今後の課題

- ▶ 平成 14 年時点の調査では板葺き（2.5%）、銅板葺（28.1%）、瓦（21.9%）、鋼板（36.1%）でした。現在の残存状況や葺替えの有無などを文化課と協働しながら変遷を調査することが必要です。

5) 屋根瓦・棟瓦

赤い越前瓦に笏谷石の棟瓦を載せるのが一般的でしたが、現在はともに生産されなくなっ
てしまい、銀鼠の瓦を使用するのが一般的となっています①～③。



① 越前赤瓦と笏谷石の棟瓦



② 銀鼠色の瓦と笏谷石の棟瓦の組み合わせ



③ 現在は雪止め付の銀鼠色が一般的

POINT

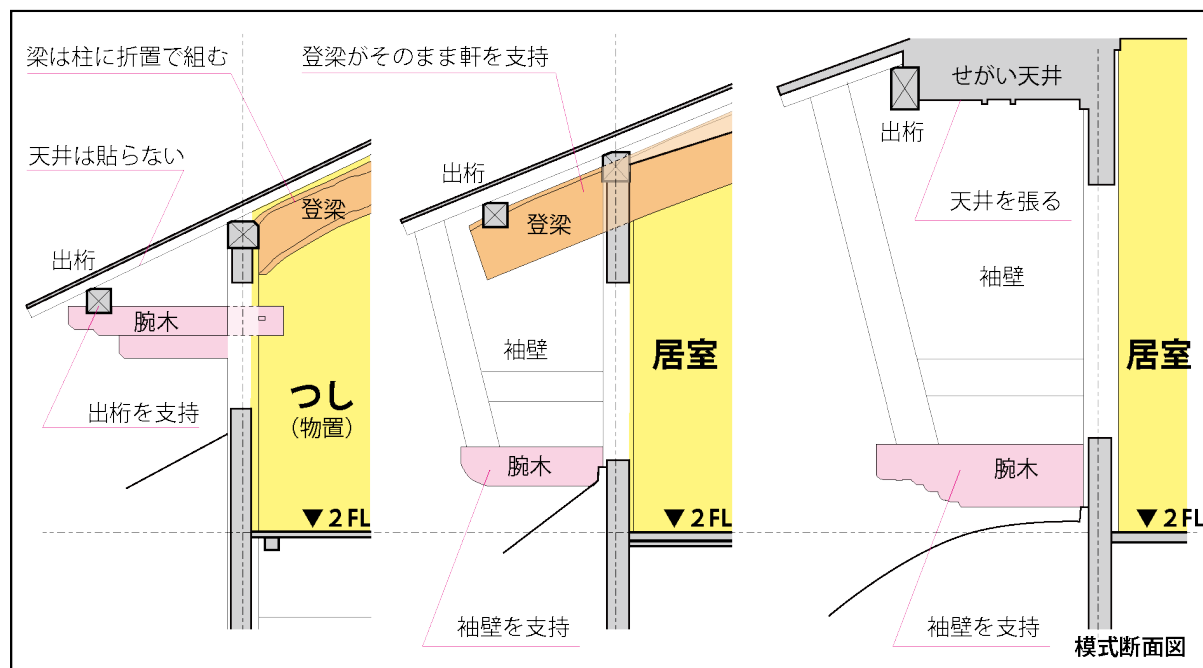
▶ 越前瓦は銀鼠が一般的となっており、笏谷石は採掘が停止しています。

今後の課題

▶ 平成 16 年の調査では全体の約 7 割が瓦屋根でした。現在の残存状況や葺替えの有無などを文化課と協働しながら変遷を調査していく必要があります。

6) 軒先の構成 [腕木・登梁・せがい天井]

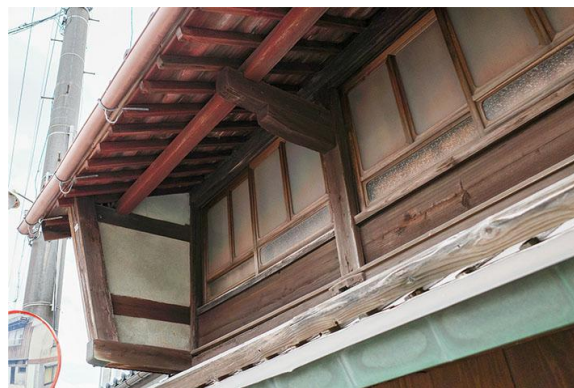
2階軒下の構成は、構造的にも意匠的にも重要な部分です。「腕木（うでぎ）」を持ち出して支える方式が一番古いと考えられており、天井は張らないままです。2階が居室になり、軒高が高くなってくると、「登梁（のぼりばり）」をそのまま持ち出し、桔木の構造で軒先を支える方式になります。これが三国湊の最盛期の意匠であると言われています。大正期になるとさらに天井高は高くなり、出桁を除いて構造材が隠され天井が張られた「せがい天井」の構成がみられるようになります。



[腕木] 柱から垂直に突き出し、屋根を支える横木のこと。腕木の先端に出桁と呼ばれる横材を通して垂木を架けて屋根を支えています①②。



① 腕木の例



② 腕木の例

[登梁] 梁が斜めになり、屋根を組む形になっています。屋外までそのまま伸ばして、出桁を通して庇も支える構造となっています③④。登梁の木口は銅板をはったり、そのままだったり意匠に違いもみられます。



③ 登梁（木口に銅板化粧）の例



④ 登梁（木口そのまま）の例

[せがい天井] 庇の下、壁から出桁までに張ってある天井をいいます。船の両舷にある船棚（船がい）に似ていることからこう呼ばれたとも言われています。天井の張り方は様々ですが、一枚板の豪華な造りのものもみられます⑤⑥。



⑤ せがい天井（一枚板）の例



⑥ せがい天井の例

POINT

▶ 時代によって構成は異なりますが、各戸がそれぞれ工夫を凝らした意匠がみられます。

今後の課題

▶ 現在の残存状況を整理することが必要です。また復元する際には、時代背景や痕跡などからどのような構成だったかを推察しながら修復することが必要です。

7) 2階の開口部

2階部分が物置として使用されていた時代には無双窓（三国では「めもじまど」という）が採用されていました①。その後、居室として利用されるようになると、窓の大きさも大きくなり、ガラス戸が入るようにもなります②。また、大正時代には漆喰の塗り回しの上に、鉄製の柵を入れる意匠が流行していました③。現代では作ることができないような、意匠性の高い窓枠も残っており、様々な様式の開口部が並んでいます④。



① 背の低い2階開口部の例



② 格子のある2階開口部の例



③ 2階の装飾窓の例



④ 2階の装飾窓の例

POINT

- ▶ 2階開口部の意匠は時代や建物によって様々です。改修時には建物固有の特徴がないか調査することが望ましいです。

今後の課題

- ▶ 意匠性の高い窓を残すことができる方策はないか、検討していく必要があります。

8) 玄関

明治中期以前に建てられた町家の玄関は「あげ戸（しとみ）」が設けられていました。現在ほとんど失われていますが、旧岸名家改修時には、このあげ戸も修復されています①。

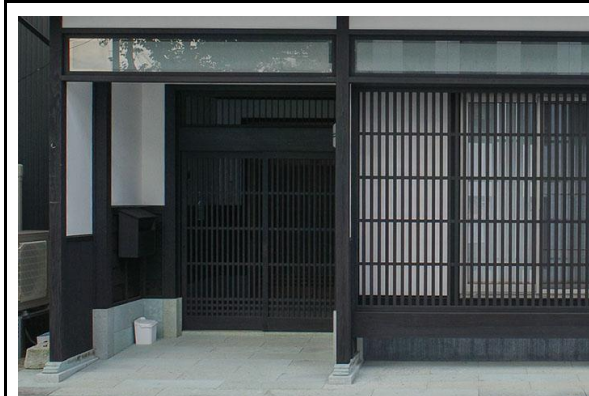
現在では多くの町家が引き戸を採用しています。格子付きやミセの部分大きな開口にするなど、各戸で様々な意匠がみられます②～④。



① あげ戸とくぐり戸（旧岸名家）



② 木製引き戸の例



① 改修された木製引き戸の例



② ミセの部分の意匠性の高い店舗入口

POINT

- ▶ 以前は「あげ戸」が用いられてきましたが、現在はほとんど残っていません。
- ▶ 必ずしも格子付きの引き戸ではなく、多くの意匠が採用されています。

今後の課題

- ▶ アルミ製の建具が一般的になっており、木製建具への改修を促していくことを検討していく必要があります。また、平成 16 年には玄関戸の調査は行われていなかったため、カルテを参照し、どの程度残っているか改修されたかをみていく必要があります。

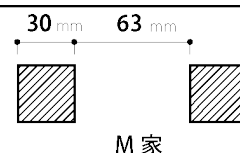
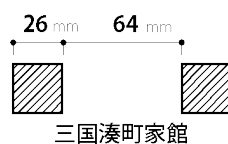
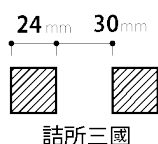
9) 格子

三国湊の格子の寸法をみると、8分-1寸程度で、間隔も8分-2寸程度で様々なバリエーションが存在しています①～⑧。金沢町家の木虫籠（きむすこ）と呼ばれるような繊細な格子はみられず、サイズは各戸で異なります。格子の付ける位置はそれぞれの町家で異なり、付けない場合もあるなど多様な窓構成で変化のある町並みが続きます。

昔は2階が物置として使用されていたため、居室として使われる様になってから2階窓に格子がつくようになったと考えられています。明治の初め頃は柱のすぐ外に取り付けられる形でしたが、明治後半には1尺ほど外に飛び出すような出格子も出現するようになります。

格子の各部断面寸法の例

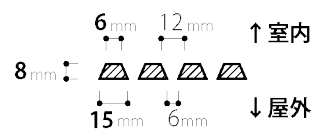
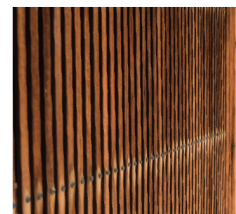
様々な寸法の格子が存在している



一つの建物の中でも様々な寸法の格子が混在している場合もある

【参考】

金沢の町家：木虫籠（きむすこ）の断面寸法の例



① 正面開口部全面を格子にしている例



② 玄関以外に格子のある例



③ 1階のミセのみ格子にしている例



④ 格子を用いて設備機器を隠している例



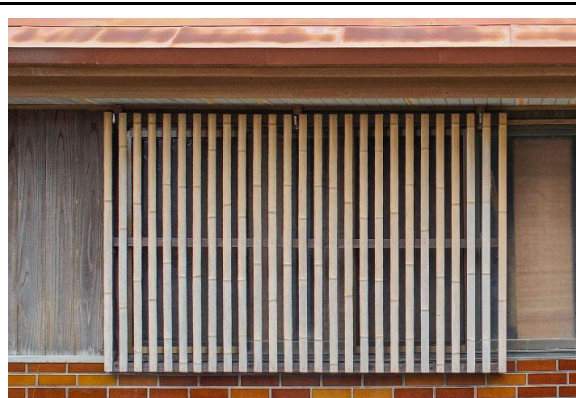
⑤ 2階柱間に格子が埋め込まれる例



⑥ 2階の出格子の例



⑦ 格子のない町家が並ぶ町並みもある



⑧ 格子に竹を用いている例

POINT

- ▶ 三国湊の町家の格子は寸法や設置場所がそれぞれに異なり、各々の工夫がみられます。
- ▶ 既存の踏襲のみならず、創造性を持ってデザインできる場所の一つです。

今後の課題

- ▶ 設置する際には意匠に拘ってもらいよう促すような方策が必要です。